



愛知県
板金工業組合

名古屋市昭和区
北山町3-8-6
電話 732-1226
発行 広報委員会

中板協総代会

「協調と団結を誓う」

中部板金工業組合協
議会（静岡・愛知・三
重・岐阜・石川・福井
富山）は六月二十八日
静岡県浜松市「やま文」
にて、第六回総代会を
開催した。

午後一時、静岡県板
鈴木氏の司会により開
会され、静岡県板理事
長鈴木辰次郎氏より、
遠路参集された総代各
位に情いと御礼の挨拶

ののち、引続く建築業
会の不況の中で中小業
者の多い我々板金業者
に重くのしかかっている
今こそ組合活動の原
点にかえり、より一そ
うの協調を深められた
いとの要望がなされた。

つづいて「中板協」の
会長である若林全板連
理事長が挨拶に立ち、
長びく不況打開のため
建設者へ働きかけをし

ているが、目にみえて、
よくなる気配はなく、
今しばらく辛抱の時が
続くが互に協力し乗切
に努力して行きたい。

このことばのあと、六
月に行なわれた「全板
ヨーロッパ視察」につ
いて報告がなされた。

次に五十八年度事業
経過報告と決算報告が
全員一致で承認された。
続いて五十九年度、事
業計画案が提案され、
全板方針に基づいて、
補償制度の確立、技能
士、管理技士の資格取
得による企業の充実、
原価算定方式の推進に
よる企業の合理化、国
保、共済等による福祉
の推進等を強く押し進
める様決議した。

又それらに対する予算
も承認され、午後三時
めでたく総代会は閉会
となった。

出席役員は次の通り
日比野理事長、樽井副
理事長、平野・宮田・
磯崎・二村・羽柴・大
友・斎藤各常務理事
（七名欠席）



全国組織による

保証制度の発足に伴う

保証・検定委員会
講習トレーナー
講習トレーナー
合同会議開催

今年度より全国組織

による保証制度の発足

に伴って、愛知県板金

工業組合も今年実施を

前に、スケジュール表

保証事業規約、標準施

工図、検査方法など協

議のため保証委員会、

検査委員会、講習トレ

イナーによる合同会議

を開催した。

その結果

一保証工事施工者

の資格は、

(イ)愛知県板金工業組合

の組合員であること

(ロ)技能士の資格を有す

る者で、鋼板製屋根

講習、銅板製屋根講

習、塩ビ雨とい講習

を修了した者である

こと。

一保証の対象となる

工事

組合員が施工する工

事のうち建築主から

組合員を通じて要請

のあったものを対象

とする。

(イ)屋根工事

・折板ぶき

(重ね式・ハゼ式)

・瓦棒ぶき

(心木あり・心木なし)

・平ぶき

(一文字・堅平ぶき)

材料(窯業等は除く)

・表面処理鋼板

・銅板

・塗装ステンレス

(SU S三〇四)

(ロ)樋工事

・軒どい 丸型

・住宅用角樋

・堅樋

材料

・硬質塩化ビニール

・表面処理鋼板

・ステンレス など

(ニ)樋工事

大型角樋・二重角樋

は来年度より実施する。

一保証の対象外

(イ)屋根勾配が25/40より

も緩やかな屋根

(ロ)融雪装置をとまなっ

た屋根

(ハ)火災および強度の天

然現象(地震または

下地材など破損を伴

う台風等)による被

害

(ニ)公害によるもの

(ハ)施工後の外力による

損傷

一保証の方法

(イ)屋根局部の修繕及び

葺替え施工

(ロ)屋根全面の葺替え施

工

(ハ)その他修繕に必要な

施工

一検査範囲

(イ)建坪100㎡又は工事額

五十万円以下を小規

模工事として、写真

判定する。

(ロ)保証申請料

基本料 建物一棟毎

六〇〇〇円

その他、工事規模に

応じた保険料が必要

です。

責任施工保証制度の実施について

保証委員会では本制度適用工事の範囲につ
いて指導委員会及び技術専門員（標準構法トレ
ーナー）と合同で協議を重ねた結果、次の通り決
定しました。

- | | |
|------|------------------|
| 屋根工事 | 折板ぶき（重ね式ハゼ式） |
| | 瓦 棒（カラー鉄板カラーステン） |
| | 波板ぶき（カラー鉄板） |
| 樋工事 | 平ぶき（カラー鉄板カラーステン） |
| | 軒どい 丸型 |
| | 住宅用角樋 |
| 外壁工事 | 堅樋 |
| | 角波（鋼板 カラーステン） |
| 樋工事 | スパン プリント |
| | 角樋二重組 大型樋 |

なお次の工事については、本年度中にマニ
ュアルを策定して来年度より適用されることにな
りました。

- | | |
|------|---------------|
| 外壁工事 | 角波（鋼板 カラーステン） |
| | スパン プリント |
| 樋工事 | 角樋二重組 大型樋 |
- 以上

この保証制度の施工資
格の講習も今後開催さ
れますので組合員でな
い方も組合に加入され
多数受講されるよう、
指導委員会から要請が
ありました。

「二級建築工事技術者」

試験案内

昭和58年8月31日建設省告示で近年の建築物の高層化、建築材料の多様化等に伴い、ますます重要となっている建築施工管理技術の向上を図るため「建築施工管理技術検定」が毎年実施されております。これは、年々増大を続ける建築需要に対応し、高度な施工技術を提供することによって、良質な建築物の提供を促進するために全国一六〇万人の建築技術者を対象に行なわれるもので、この技術検定に合格した者は、建設大臣より合格証明書が交付され「建築施工管理技士」の称号が与えられます。この試験が次の通り実施されます。

記

一、受験資格

(イ) 学歴と必要な実務経験

学歴等	実務経験年数	
	指定学科	指定学科以外
大卒	一年以上	一年以上
短大・高専卒	二年以上	三年以上
高校卒	三年以上	四年以上
その他	八年以上	

(ロ) 学歴にはそれぞれ旧制学校等も含まれます。

(ハ) 職業訓練法による技能検定（建築関係）に合格した者

試験日

昭和59年12月16日（日）

試験地 名古屋

受験料 六、〇〇〇円

申込書類

① 受験申込書

② 受験申請書

③ 住民票

④ 写真

⑤ 卒業証明書

⑥ 資格証明書

(注) ①から④までは、受験申込者全員が必ず提出するものです。

⑤・⑥は各々該当者が必ず提出するものです。

六

申込書類の提出先及び問合せ先
〒105 東京都港区虎ノ門1-26-5
財団法人建設業振興基金・試験研修本部
電話 〇三—502 六一三一（代表）

七

申込受付期間
昭和59年8月31日（金）～9月14日（金）
申込みは簡易書留に限り、締切日の消印のあるものまで有効。ただし、料金別納・料金後納郵便は締切日までに到着したもの限り受付可。

八

「申込用紙及び受験の手引」の請求について
① 「申込用紙及び受験の手引」一組三〇〇円（郵送で請求の時は送料共一組四七〇円・切手不可）

②

取扱い場所
中部建設協会
〒460 名古屋市中区丸の内三—五—一〇
住友商事丸の内ビル内
TEL 052—962—九〇八六

第一・四半期役員会

責任施工事業を強力に推進

総代会後初の常務理事会は七月十二日午前から、続いて午後一時半からは理事会が開かれ、責任施工事業に関して現況報告がされたあと、「二級建築工事技術者特別研修」について細部にわたり説明がなされた。

☆責任施工事業
日比野理事長より本業の実施に先立って、愛知県板として各種構築施工マニュアルの補足や実施方法について

の具体策について、八月中旬に策定したいとして、保証委員、指導委員会を中心にその作業を推進されるよう要望された。

両委員会ではこれを受けて七月十六日の合同委員会をはじめとする専門部会、研修集会等の日程を組み作業を推進することに決定した。

☆二級建築工事技術者特別研修について
事務局から受講案内にもとづき詳細にわた

って説明がなされたあと、申込みハガキを8月10日までに事務局に提出しチェックの上一括して建設業振興基金研修本部へ送付することに決定した。

☆総務委員会関連事項
平野総務委員長より7月7日の委員会における審議内容について報告された。

●全板奈良大会には組合から一七〇名が参加し無事終了し、予算面においても略々枠内で納まったことを報告。

来年度の第37回大会は五月二十二日に東京NHKホールでの開催が決定しているが当組合としては一泊程度の懇親旅行を組み込んで全県統一して参加したい。

●来年度愛板総代会は工業組合創立二十周年にあたるので、それにふさわしい記念事業を実施したい。

このため早速に組合表彰規定を策定し、役員経験者や地区功労者等幅広く顕彰する等、関係者多数の参加を図りたい。

その他他館会議室の冷暖房工事が完了したことを報告したあと今後の事業推進に対し一層の協力を要請して、午後四時散会した。

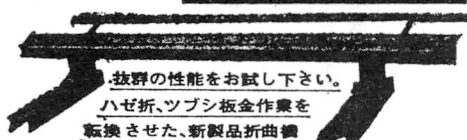
PAT

実用新案登録
第1218237号

工業所有権・清水 功

名古屋バッタ

株式会社 スカタ製作所



技師の性能をお試し下さい。

ハゼ折、ツブシ板金作業を
転換させた、新製品折曲機

（製品種類）

【手動式】
スタンダード 1000%
デラックス 2000%
デラックス 2500%
デラックス 3000%
デラックス 4000%
デラックス 5000%

【手動式】
半自動 2000%
半自動 2500%
半自動 3000%
半自動 4000%
（半自動スキマ近口機）

【動力式】
180V 2000% DXタイプ
280V 2000%
200V 2500%
200V 3000%
200V 5000% 半自動タイプ

総発売元

中部板金機械工具連盟

PAT

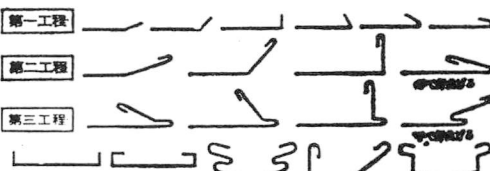
スピッター

木村製作所

第一工程

第二工程

第三工程



本部 丸石産業株式会社内
〒454 名古屋市中川区八坂町1の18
電話 052(351)1541-3

全板連・欧州 建築板金業界視察団

ヨーロッパ紀行(二) 広報委員長 齊藤 充昭



全板連視察団一行二十一名中、愛板よりの参加者は、山田(西春)竹内、斉藤(知多)の三名である。

ハンブルグ空港よりバスでホテルへ。市街を走るタクシースはベンツばかり。日本のクラウン、セドリックと云ったところか。

西ドイツでは、食事が一日四回、土・日曜日は休日。一年のうち二ヶ月はバカンスを取るよう決められている。仕事時間は午前九時より午後三時迄が多く、女性も男性同様仕事を持っているのが普通である。

通貨はドイツマルク。一マルクが日本円約九十円で物貨は日本とほとんど変わらない。休日のショッピングはまったく出来ない。そのため金曜日・土曜日はすごい人である。ハンブルグはベルリンに次ぐ西ドイツ第二の都市で、ヨーロッパで最も



重要な商業港の一つである。

町のまん中に「ハンブルグの宝」と云われるアルスター湖が広がり森と水の豊富な美しいたたずまいを見せている。アルスター湖はエルベ川の水を溜めた人造湖で内アルスター湖と外アルスター湖が、ロンパルツ橋とケネデ

イ橋で仕切られている。特に外アルスター西岸はすばらしいの一言。又内アルスター湖畔ではヤングのミュージックショーが催されたり日本の露店のようなテ

ント張りの店が立ちならび、ビールを立ちのみする人、ソフトクリームを買う人、ソーセージをかじる人、仲よくくっついて語り合うカップル、それぞれ休日

を精一パイ楽しんでるようだ。我々も童心にかえってココナツにあめをからめた様な菓子を手ぶら

身ぶりで買って、かじりながら歩いた。店のドイツ嬢との話合

は大変おもしろかった。西ドイツ一日目の屋

食は、ハンブルグ市内で格式のある、ドイツ料理レストランへ行つたボーイがみ物の注文取りに始まり、スープ、パン、バター、肉料理、デザート

の順で、肉料理は大変おいしかった。しかし最初から終り迄約二時間はかかる。此れは我々が訪問した三国共、共通していた。屋の食事を二時間近くもかけて食べる習慣のない日本人には間がもてず、つい、いら／＼し出すのである。又食事の内容もレストランではほぼ同じパターンである。午後から今回最初の

目的である「ハンブルグ国際見本市、屋根、壁展」会場へ出かけた。会場は一号から七号館まで展示されており、一つの建物

が名古屋の吹上ホール位あり、屋根、壁等の

資材工具成型品、加工機械、重機に至る迄かなりの出品数であった。工事関係者とみられる人

やグループが熱心に質問したり、説明を聞いた。我々視察団も銅板製屋根、壁材、軒樋等に関

心を示し、通訳をまじえて質問をくりかえすと重要部分へ話が来る

と企業秘密とかで答えにくい事もあった。全体的にみて、製品そのものは、ドイツ人

気質と云うのか、建物の構造からなのか、単調な製品が多いが堅牢に出来ている事は共通している。

屋根材の銅板は〇・五mmが一薄方面で〇・八mm、一mmなどザラで互棒状に加工したものが多い様だ。

軒樋は普通サイズが、一五〇mm、板厚は〇・八mmが一mmでガラ巻は十三mmの丸棒が差込

である。金物類は五〇mm巾×八mm厚の平銅製である。

(平銅製もあり)これだけ大きく、しつかりしていれば人間が中を歩いたり、ぶらさがつてもビクともしないだろう。

雨樋メーカーの係員との話合の中で日本製のギメなしエルボと立樋のサンプルを送ってほしいと要請される一幕もあった。またその外には、アスベスト系着色瓦や石材を十mm位にそいだ屋根材がいろいろな形でサンプル施工され展示してあった。中でも驚いたのが断熱材の厚さである。

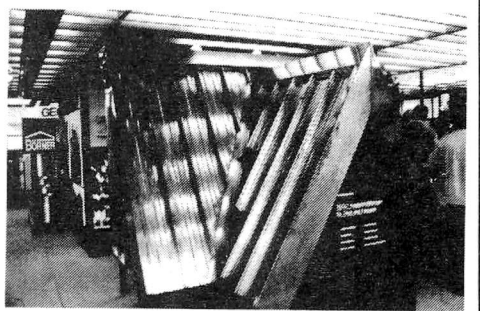
ウレタン系だと思われるが二〇〇mm以上のものが常時使われているようだ。ハンブルグの冬はマイナス二十度位まで下るそうだから当然かも知れない。

工具類では手動用、電動工具も用途に合った工夫がされ、アルミ製荷上タワリ等も種々様々なのが出品されていた。建設作業用重機は建物

が四・五階建と高層な建物が多いせい、か、それぞれの作業に合った専用機な機種が開発されているように見受けられた。

我々一行は午後六時迄見て回ったが半日位ではとても回りきれなかつた。じっくり見たら二日間位はかかると思う。

会場を大急ぎで見



回った感想と云えば、全体的に製品自体大味ではあるが、しつかり丈夫に作られており、伝統的な資材、伝統的なドイツ技術に新しい感覚を取り入れた展示物に研究のあとがうかがわれた。

時間の足りないのを残念に思いながら会場をあとにホテルへ帰った。日本では建物を作る場合には建築基準法があるのと同じで、西ドイツでも勝手に建築することは出来ない。

ハンブルグ市では市の計画により、地域別に形状、資材、色が厳しく決められている。これを無視して工事をすると、市によって取壊され、その代金を請求される事になる。

だから建物は整然と並び樹木の緑がみごとに配置され、すっきりとした落着きをみせている。

それからドイツ人は、陽気で気さくで親切である。そして毎日の生活を家族をろってエンジョイしている。

こうした人間性、生活様式を、働きバチの日本人も大いに見習う所があると思う。

会場を大急ぎで見

会場を大急ぎで見

会場を大急ぎで見

会場を大急ぎで見

会場を大急ぎで見

支部だより

東三支部 青年部

〃研修旅行を行う〃

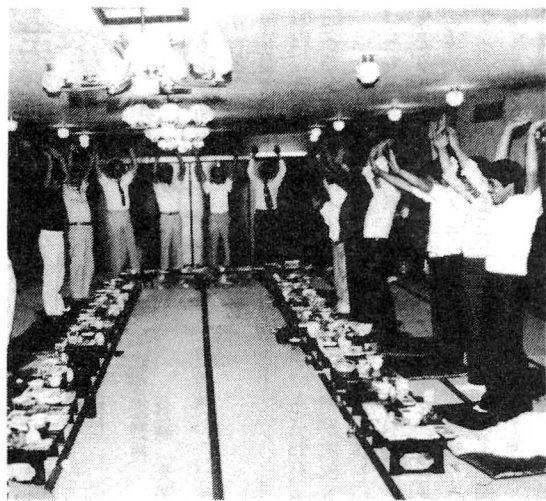


笹野青年部長をはじめ参加者は部員22名、地元問屋二社2名総勢24名で、59年度の研修旅行として6月24・25日東京方面へ行ってきました。

1日目・午前8時梅雨空のなか出発、午前中車中でこれからの業界の有り方と発展、対人関係、青年部への希望など熱の入った討議が自己紹介と共に始まり、もつと時間がほしい位有意義な話し合いがなされた。午後1時30分

東京着その後高層ビルサンシャイン60と上野アメ横などを見学、驚きと溜息のなかそれぞれの思い出になった事と思ひます。

夜に入って日頃の喉を競って「カラオケ大会」を行ない、部員の親睦につながる宴会へと入っていました。賞品もみんなにわたりました。散会後はそれぞれ新宿、吉原のネオン街を散歩、短かい一日を終わりました。



2日目・午前8時出発9時から12時半まで、船橋の太平洋製鋼のこれからの外壁材ウオールパネルの研修、工場内を見学した。

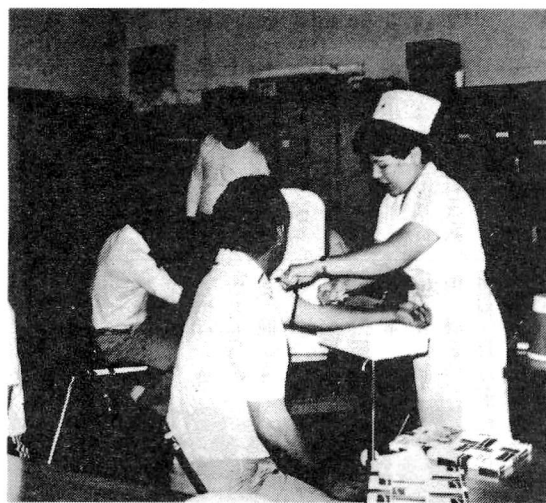
午後1時から2時半まで、八潮市の盛光の機械工具を見学、一路豊橋へ、午後8時30分みんな元気に帰宅。

知多支部献血グループ

愛の献血活動

「献血は人と人を結び愛のかけはし」を合言葉に当知多支部の年間行事の一環として全会員に呼びかけ、去る七月五日(木)午後一時より半田市内の武豊屋

株式会社社の御好意により場所を提供して頂き無事終った。当日は梅雨期ではあったが幸い好天に恵まれ大多数の参加者で賑わった。献血終了後、



大変有意義な研修旅行でした。関係者、部員の皆さん、どうもありがとうございました。来年も行ないますので多数のご参加を、東三支部 脇坂美治



各自ハズレなしの福引クジを引く。尚七月中は「全国愛の血液助け合い運動」期間中でもあり献血に参加して頂いた会員の方々には心より感謝致します。

▼脱退者 板倉永治
▼廃業 小島良一
西尾支部

編集後記

広島に原爆が投下されて早くも三十九年。今年もあのいまわしい八月六日が近づいてくる過日、「広島平和記念資料館」をおとすれ数々の展示物を目にし、悲慘な出来事をあらためて思い知らされた。そして戦争とは云え原爆投下を指示した当時のアメリカ大統領の犬畜性にも劣る行為にいきどおりの気持を押える事が出来なかった。

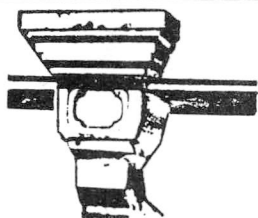
今年も国・県・原水協・原水禁と云った団体がそれぞれの会場で慰霊式と平和行進を行うとの事であるが、本当に原爆の犠牲になつた広島市民の冥福を祈る気持があるのなら、この日ばかりは思想信条を別にして、心を一つにした追悼集会を開くのが本来の形ではないだろうか。

最後にお骨折りを頂いた各々の担当者の方々に心より感謝し、全会員の御健康と御多幸をお祈り致します。

知多支部

沼澤 啓二

七月二十七日(金)快晴
一七六号編集会議
委員 五名出席
午後五時三十分終了(S)



全日本板金工業組合連合会指定商品

カラー組立雨樋
長尺銅製雨樋鳳凰



安田金属株式会社

静岡支店

静岡市中島742番地
電話 静岡 (0542) (83) 4088(代)